

広州・深圳視察研修報告書

1. 日程 2018年10月13日(土)～16日(火) 参加者26名
2. 行程 香港空港着、陸路広州2日、深圳2日、海路を経て香港空港出国
3. 感想

○改革開放40周年に当たる年、華南の大都市である広州と深圳は更に発展中であり、元気とダイナミズムを強く感じた。

○官民あげて一体となり新規事業（イノベーション）に取り組む、この仕組みは縦割り行政や指導の強い日本では真似できない。

○公共交通機関（新幹線、地下鉄、フェリー）や公共施設（図書館）に入るのにも、手荷物 X 線と金属探知機ゲートをくぐる必要があり、基本的に旅客だけでなく市民も信用していない。

○交通マナーや、入国審査、新幹線への乗車までの時間ロスなど人的面や運用方法などのソフト面はまだまだ遅れはあるものの、ハード的には先進部分多い、このままでは日本が抜かれる日も近いと脅威を感じた。

○先進的な建築物の視察と説明、JETRO 広州代表天野所長の有意義なお話、岡谷鋼機現地法人の代表者の方々のお骨折りもあり、知識見分が拡がり、参加者相互の懇親も図れ、非常に有意義な4日間でした。

4. 概要

(1) 新幹線（広深港高速鉄道）

今年9月下旬に香港まで延伸した新幹線は香港九龍駅から広州南まで約50分であるが、入国審査（顔認証、指紋認証）などに相当の時間が掛かる。しかも大勢待っている窓口2名しかおらず他に係員が居ても無関心で応援に入らない。

また、新幹線の本数が少なく発車の直前にならないとホームに入れない。



そのため、新幹線乗車時間よりも乗車前の時間が圧倒的に長いという笑えない事態。相当余裕をもった計画が必要。

ハードは日本の新幹線に酷似しており、走行中は揺れも少なく快適。

最高速度 300 km超とうたっているが、120 kmの距離で1時間掛かるなら平均時速 120 kmの筈なので、最高速 300 km/hには違和感がある。

(2) 交通マナー

広州は大気汚染対策としてオートバイ乗り入れ禁止、バスやタクシーなどは電気自動車（EV）が走っていて、近年中に EV100%に義務化される。

オートバイは無いものの、電動自転車が音もなく高速で走行。

自転車扱いのため、歩道・車道、右側・左側関係なく、ヘルメットも着けず夜は無灯火で走り回る。最高速 60 km/h も出る物もあるようで、歩道でぼんやり立っていて衝突されれば命の危険すらある。

バスなどもパッシング車間詰めなどの煽り運転当たり前、信号機少なく、左折やUターンの際には、じりじりと進んで強引に入り込む、そのため事故は多く、ベンツ、BMW などの高級車、タクシーなどでも擦り傷を修理せず付けたままが多い。一方深圳では自動車メンテナンスの人員がいるので、広州に比べきれいな車が多い。交通マナーは日本とは大いに異なり危険。

(3) 広州夜景（花城広場）



ゆったりとした広場、高いビルやタワーを色とりどりのライティングがなされ美しい。夜でも小さな子供を連れた家族連れが多く、酔客の姿は見られない。ゴミも殆ど落ちていない。夜なのにみんな元気という印象。

(4) 広州市視察

人口 1,300 万人の大都会。華南広東省の中心として栄えている。古い文化施設を残しつつも、今もなお不動産開発が盛んになされている。

<広州国際金融センター（IFC）>で、越秀集団（YUEXIU Group）の説明を受ける。同グループは「広州市政府」出資で 1985 年に香港で設立された。

以来 30 年間で不動産、交通インフラ、金融の三大産業を中核としつつ、多方面に進出した超巨大コングロマリット。傘下企業は香港市場にも多数上場している。不動産、電鉄、バス、銀行、証券、商社、ベンチャーキャピタル、消費者金融など金融が中心であるものの、不動産開発を行い中国全土だけでなく、香港や他の国から誘致し、事業に投資を行い時価総額を上げていく経営を行っている。（広州市政府が出資する）官営企業でありながら、その自由度と発展スピードに驚かされる。



IFCビル（右） エントランス 越秀職員から説明を受けるメンバー

他にこの日は古い文化的施設である「中山（孫文）記念堂」「陳氏書院」を視察し、珠江を船で両側に林立するビル群を眺めた。

夕刻には JETRO 広州代表 天野所長から下記 4 点中心にご講演頂いた。

- ① 日中の政治の動き 大島衆院議長・安倍総理訪中の影響
- ② 改革開放政策 40 周年 深圳のイノベーション
- ③ 香港・マカオ・深圳の経済における一体化
- ④ 中国の景気・地方の負担大、米との経済摩擦

その後の質疑応答では活発に意見が交換された。

（5）深圳市視察

深圳市も人口 1,200 万人を超える大都市であるが、その平均年齢は 33 歳と若く、電子部品の集積地でもあり、イノベーションとインキュベーションの街である。渋谷と秋葉原を足した街が東京 23 区全体を覆いつくしているようなイメージ。

<奇信知能化行程有限公司の視察>

ビル全体をインテリジェント化し、入退出管理、電灯の点灯・消灯、従業員の勤怠管理などのインターフェイスをロボットにさせるインフラを作っている会社、新築ビルだけでなく既存ビルにもシステムは導入可能とのこと。



インターフェイスのロボット 説明を聞く参加者

うまく機能すれば、相当便利ではあるが、まだまだ危うさも感じた。

音声認識の精度は説明者によると 95%とのこと。ソフトバンクの Pepper よりレスポンスは早いように感じた。（早く動くように特別な制御されてるかもしれない）

＜深業上城（アッパーヒルズ）視察＞

ビジネス高層ビル、高層マンション、大型商業施設、ホテルなど複合的に開発を行っている。香港のやり手のデベロッパーを深圳市政府が引き抜いてきて、総合開発の任に当たらせている。無印良品のブランドを掲げた MUJI ホテルを日本に先駆け開業。



デベロッパーからフロントで説明を受ける



ホテルの客室



無印のイメージ

見た目はインテリジェントビルのような高層マンションが、上層階で2棟つながっていたり、商業施設はイオンが開発しているようなものだが、通路や店舗が日本の数倍の広さがあり、客数の少なさも相俟って、だだっ広く感じる。

日本の良いものを貪欲に取り入れようという意欲が強く、「UNIQLO」や「無印良品」は、日本におけるブランドイメージより、中国におけるイメージは高いとのこと。



(手前) MUJI ホテル (奥) マンション



ビジネス塔 2棟同時建設



ビジネス塔セキュリティ



ビジネス塔での説明



MUJI レストランのランチ

<平安金融センター展望台>

地上約 600mの高さ、東京スカイツリーの展望台が 450m、あべのハルカスが 300m
なので、あべのハルカスの約 2 倍というとんでもない高さ。
展望台から下を見れば、400m級のビルも小さく見下ろす。



見上げれば首が痛い

飛行機から見下ろすようなビル群

展望台（小さい土産店あり）

<深圳湾創業園區>

園區という日本語では耳慣れない言葉、他と区別された区域とでもいうのか？

ここでは兎に角驚いた。深圳市自体が経済特区ですが、自ら起業するイノベーター（創業家）を集めてくるためのあらゆる方策が、深圳市政府によって用意されている。

○まず、住む場所を確保するためマンション建設を行う

○次に、オフィスビルを建設し、社長たちが自由に行き来できるようにする

○会社を立ち上げるための手続きの相談、法的相談、経営セミナー開催

○深圳市政府が立ち上げたベンチャーキャピタルがイノベーターに投資

ヒト、モノ、カネ、ハコを全て公的機関がサポートし、早く事業を立ち上げるためのものが揃っている。3日もあれば試作品、1 か月もあれば量産化可能というスピード感。ただし、創業も多ければ、倒産も多い。しかし彼らは落ち込まない。

「失敗すれば、このビルのどこかで雇ってもらおうさ」とのこと。



創業園區の説明を受ける

ビルが繋がっており休憩スペース共用

互の字を模したビル

100 平方メートルのマンションの区分使用権が 1000 万人民币元（1 億 6 千万円）でも成功を求めどンドン集まってくる深圳。その勢いを強く感じた 4 日間でした（中村）